


附錄上四頁

[illegible]

廿四名)
 廿二
 廿三
 廿四
 廿五
 廿六
 廿七
 廿八
 廿九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

同様に一種の重宝である。其
 中内に別冊又は同案紙早
 以五十餘書精券を呈す（中）
 と明記に眼る ▲宛名は京原
 局附省文政館

報 摩



ある日のこと君子はその蝙蝠傘差してお便に行きました。途中で五人の女の子と逢ひましたが、四人とも皆新しい蝙蝠傘を差してゐました。

「あ、あんな新しい蝙蝠傘が欲しいな。」

と君子は思ひながら歩きました。そしてお便先に行つて用を足して歸還にも君子は又四人の女の子と逢ひましたが、その時逢つた女の子も新しい蝙蝠傘を差してゐました。

「お、御も彼も新しい蝙蝠傘を差してゐる。」

と君子はかう言つて涙ぐみながらきました。そして君子は自分の蝙蝠傘だけがこんなによれて破いのと思つて厭で／＼たまらなくなりしたから、櫛の上を通る時、後先考へもなく蝙蝠傘を用の中へ投げ込んでしまひました。

「お、好い氣持！もうあのよこれ、船乗は私のはなくなりました。」「好い氣持！」と君子はひとりでことを言ひながらうちに歸りました。やつと君子がうちに歸りついて戸口を入らうとする時、後の方から、「お、君子さん、私も只今！」と言つたものがありました。

「おや、誰だらう？」と君子はびっくりして後を振向ますと、先刻橋の上から川の中に

夏枯を知らぬ大繁昌の旅客階級
一般に中流社會に注意すべき現象

時節金運船に據りて往來するの客非常に激増し内地より渡船する朝夕入港六百名内外にして乗船する者散て分ちざる數に上り殊に對人魚者の多數隨處便乗する爲め船客の多難國語を越過し乘船を拒まるべき密着状態に乘船を拒まるる者と被に非ざる狀態なるが據のききは連船離船以來未だ期かゝる疾に僅年夏期は最も賑かにし九月に入りて避暑の爲め温泉地なき岩中休暇を利用して歸省する者甚く其體の用や胃腸の

大に注意すべきことすべし此等今來創する此等の乘客に就き鯨の理由を説くに極め申合しぬく諸君に據れば内地に於けり種々の不安は非常の別業を成し其を呈し居れるは時以上なるが如きも之れが利潤に當する者は僅に資本主と職工労働者に限られ地主の労働を目的として都會に入るもの漸次夥しく爲めに

結果其影響は一般國民に及び殊

くどこに依れば從來前記の地
湧き出る冷泉は胃腸病及び皮膚
病に人浴に來る旅人多く殊に最近
甚効ありとて人知れり
其數増加しつゝあるを以て近
冷泉の分析表及び飲用の明
したる上完全なる温浴の設備を
一宿泊客の爲め便ならしむる空
は愈々大隈川沿いの輕鐵線路
の邊は隈川に臨みたる温泉浴場
より頗る前途を展望せしむる

京城神祖神宮を治

此の程の事なりとか、年頃三十
 五、日本國宗廟に赴き、幼少で
 難入、京城神祇社の社務所に來
 り神官に就て面會を求め、是
 の人なき所に、直ぐに御前へ
 上ることありと云ふ事振舞ひ
 ぬに神官に適切りて印と思ひ
 ぬ、斯かき事聞くが如くは、
 本誓など切を誤して、其の如
 くに書き事の次第を問ひしに、

山の中なかにには投げこまないで、いつ

ても（差して下さぬ）ね、君さん
 申しましたさ（なり）

●新鑛泉の發見
 近頃、新鑛泉、發見、
 同、大野、河、南、經、輕、鐵、道、近、道、
 距離、約、千、町、の、こゝろ、大、野、町、
 海、氏、の、所、有、さ、る、水、田、區、内、に、松、
 樹、及、び、ラ、ヂ、ウ、ム、を、含、有、さ、る、冷、
 水、を、發、見、さ、れ、目、下、總、督、府、大、試、驗、
 之、を、送、致、精、細、分、析、し、な、る、と、

化

粧（けい） 洗落（せんらく） さう
する方が
◇皮（かわ） 皮（かわ）
して色の
はありき
地で黒（くろ）
て秋の目（め）
に回復（かいふ） さ
ですから
けないや

の の
の が
の ヒ
の ヤ
の リ

大熱物で
うちにけ
ればなり
お化粧は
てゐます
いので、

◇地味

取りかゝ
化粧とし
りよく境

をこくろ

りてから
りります
濡れ手拭
白粉の派
をたき
が何と
い一方
可ませ
つけた
います

浪桃

五郎を始め、（五郎は） 出かね
 命に仕事をして居
 りましたから、（五郎は） 云つ
 せ、道具籠を始末
 致し、（五郎は） 此處
 イオン州歸らうと
 煙草の道其だから
 るに氣を付けろ
 に吩咐けまして、（五郎は） 無
 は除割したか、甚
 だしく、（五郎は） 居やア

100

[illegible]

水の流れへ
葉はねの
品製の純

したつた二枚限りし
 で生意氣なことを
 するのには當然に
 やがる、一人前
 経へば遠其なほ
 恥を云つて居や
 能、然うか、
 能、オイボ
 の始末をしてくれ
 恥を云つて居や
 能、然うか、
 能、オイボ
 したつた二枚限りし
 で生意氣なことを
 するのには當然に
 やがる、一人前
 経へば遠其なほ
 恥を云つて居や
 能、然うか、
 能、オイボ



染服

州は、如何なり仕事が出来るか。○彼は
 彼は使ひもんによつたりぬ。○板
 釘をさす處が、一丁かつた左
 三枚した釘やアがらねんで、政
 治の誰かが板釘やアをした。
 出まへてやり無わ、何の位の仕
 事か判らねむい者を最前から

わのは當然だ。誰が板割りをさせろ
と云つた」と改右衛門小苗を申しさ

九月四日 九月
 七月十八日 巳
 本 命 三 聖 年 除 亦 日

在▲二黒 北國のあわね事有日新學堂 實事日
生事用弁弁のがよし

小兒科
花柳科
內外科
門診
安東病院

浪花館
電話 三六〇
大正 浪花館
大正 浪花館
大正 浪花館

有樂館
電話 三六〇
大正 有樂館
大正 有樂館
大正 有樂館

小兒科
花柳科
內外科
門診
安東病院

浪花館
電話 三六〇
大正 浪花館
大正 浪花館
大正 浪花館

有樂館
電話 三六〇
大正 有樂館
大正 有樂館
大正 有樂館

二女一代の衛生

女の一生に衛生上最も大切な時期が三つあります。第一は女の一人前になつて之から嫁入らうとする嫁時、第二は結婚後の二三年、即ち花嫁時代、第三には主婦になつてから中年期に入らうとする頃、之が婦人の三大嫁期と稱してその一生中一番油斷のならぬ時です。何故かと言へば此三時期には身體の組織に變化を來すから自然病氣に罹り易くなるのです。其中でも最も多いのは一旦に婦人病と稱する子宮疾患であります。時々先づ嫁時病の事から申せば、時々月經が不順になつたり、軽い頭痛がたり、氣がよふいたり、月經以外の分泌物(しけ)があつたりする。こんなのは既に子宮病の先驅之を溜さずに結婚でもすると重い子宮病腹疾になります。それに嫁入前、嫁時、花嫁の一生、

それが珍め家庭は淋しく一生不幸なればならぬ病になりましますから、前申す宮殿の婦人病者は一顧も「命」を顧みず服出して健康を恢復せん事をお勧めします。

△中年婦人の衛生

三十歳から四十歳、此の頃さうり結婚時代にも子宮病者が増分多いのです。宮殿は矢張り前記の如きで治癒も亦異な所はありません又四十歳を越すと婦人はよくヒスリに罹り易くなるのです。この原因主として子宮疾患からで、此は血脈頭痛、膨脹、逆上、下腹引張り等、體腔全部の硬子が狂ふのならず、心持が即前ニガラリと變て氣の渾き泣きが繼しく、ツマラ病が心能になつて泣いたり笑つたります。平生好きな物が嫌になつた

三十歳から四十五歳此の頃さき
主帥時代に子官病者が随分多い
のです。容態は矢張り前記の如き
ので治療も亦其の所はありませ
ん又四十歳を越すと婦人はよくヒ
スリに罹り易くなるのですが
の原因は主として子官疾患からで
其容態は頭痛、膨脹、逆上、下腹
引張り等々膀胱部の腫子が狂ふの
ならず、心持が目前にガカリと變
て氣の渾き沈みが強しく、ツマラ
ずが心配になつて泣いたり笑つた
りする。平生好きな物が嫌になつた

最も大切な時ですから、若し少しでも聞記の如き状態があつたら本非最優の婦人を誦博士の證明せらるゝ命の神を服用して大事を未然に防がるゝ注意が肝要です。

△結婚後の衛生▽

嫌ひな物が好きになつたりする、疑ひ深く邪推深く、迷ひ多くなる。其たゞは念の無い、見たり、香のせぬのが聞わらるゝ之の關はすにおくゝ迷には其神病者になりますから、大に驚て一日も早く命の神を服用す

さて結婚後の二年間、此の花嫁時代が、女子宮病に犯され易く、結婚當時婦人は十月七八まで之に罹ります。以前は何となく夫たのが嫁入してから間もなく月經が狂ひ出す頭痛や眩暈がする、逆上る、帯白下があつて下腹や腰の邊が引けるやうに痛むなど云ふのは確に子宮内膜炎に罹つた證據です之を平癒もせずにはつてよくと病勢は次第に進んで、

「婦人病者の心得」と云ふ一冊の衛生書を一讀する必要が、御入用の方は左記何れにハギにて、東京市京橋區新榮町一箇國省三、大阪市北區本庄中四五七箇國省三宛御出込次第無誤呈しま。

● 胸腹痛みに……仁丹
● 頭痛目眩に……仁丹
● 舟車の暈に……仁丹
● 煙草代用に……仁丹

新發賣

金言容器

仁丹十五包 添附す

藥量

金言……二章宛を印刷して
容器……新案の紙製にして
藥量……十錢包の二倍分あり
頗る徳用

故

仁丹愛用家は
即刻お求め下さい

